

地域医療の現状や広島県地域医療推進機構（仮称） に期待することについて

～ 広島県地域医療推進機構（仮称）設立検討委員会委員からの御意見 ～

「広島県地域医療推進機構」の果たす役割に期待する

広島県地域医療推進機構（仮称）設立検討委員会委員

看護職員確保対策協議会会長 岡崎 富男

広島県の将来の医療体制をどの様にして行くかを検討するには、先ず広島県の医療体制の現状を分析する必要がある。その結果、各地域で必要とされている医療を実践するのに、どのような職種の医療者が何人要るかを算定して、その大枠を示しその細部については地域毎に、今後どのような領域の診療を充実させて行くかを論議するべきある。

研修医に対しては魅力のある「地域医療研修」の内容を示して、積極的に参加を促す必要がある。

女性医師の増加に伴い「勤務医」特に女性勤務医の労働環境の整備が喫緊の課題である。この事は引いては男性医師の過重労働の解決にも生かされると考える。

どの地域でも住民が安心して暮らせる保健・医療の体制を確立するために「広島県地域医療推進機構」の果たす役割は重大であり、大いに期待している。

広島県地域医療推進機構（仮称）設立検討委員会委員

広島県老人保健施設協議会理事 畑野栄治

医師の地域偏在や医療提供体制崩壊は喫緊の課題である。医師確保の為には3つのMからのアプローチが必要である。まず、自治医科大学卒業生や広島大学「ふるさと枠」医師に行っているような経済面での支援である。『お金を出しているので口も出すぞ』と個人の自由選択をある程度押さえることも必要な時代である（Money）。次に、医療サービス不足で困っている中山間地で勤務することは医療職の重要な役割であることを医学生の時から生涯を通じて教育する必要がある（Mind）。心が動けば体も動くからである。現在の医師卒後研修制度の元では、中山間地への希望医師の求人・派遣・調整・研修などの複雑な機能を大学医局だけに期待することは困難な状況になっているので、これらの機能をマネジメントする総合窓口が必要である（Management）。